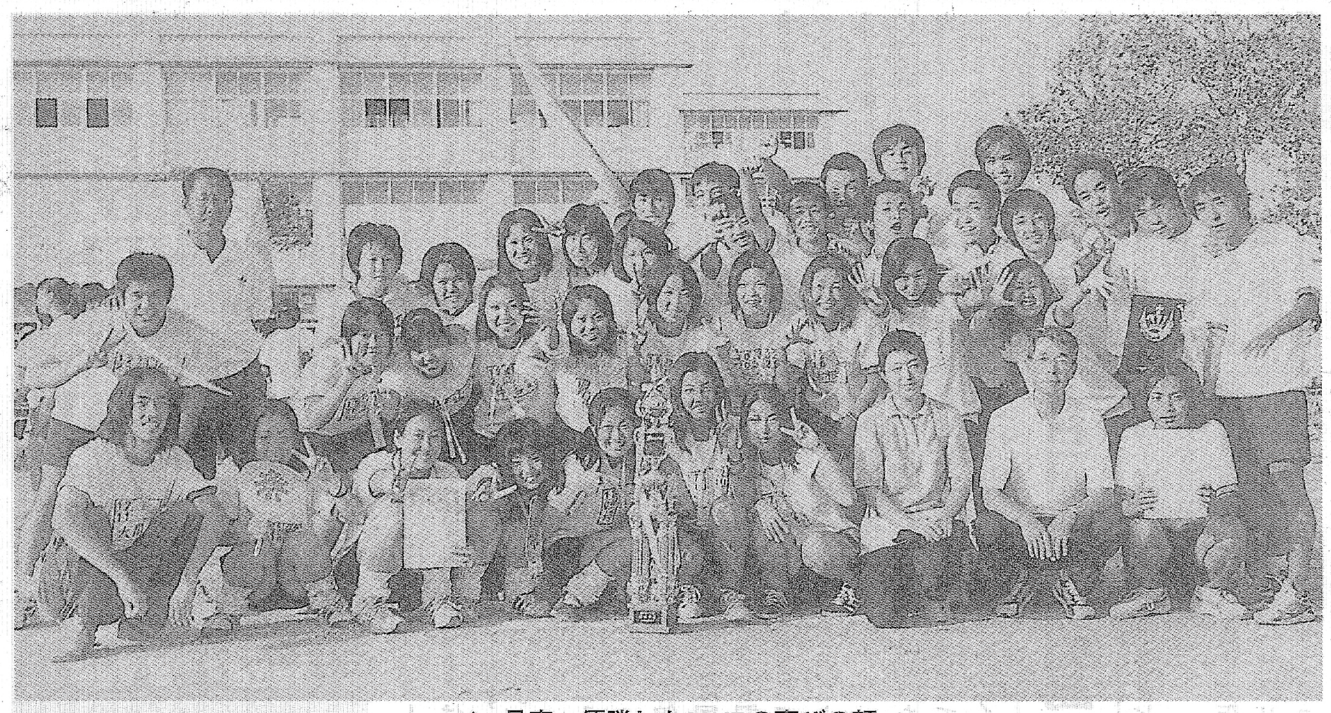
浜松南高新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
TEL(053)441-1486
FAX(053)442-0148

印刷
富士印刷株式会社

体育大会

勝利の栄冠 黄力(きりょく)で勝ち取る



▲ 見事、優勝した32HRの喜びの顔

最終結果

〈総合優勝〉
黄チーム（17・27・32HR）
〈男子百メートル優勝〉
佐野　晋吾（紫）
〈女子百メートル優勝〉
五十川　菜保（黄緑）
〈男子二百メートル優勝〉
林　伸哉（橙）
〈女子二百メートル優勝〉
井上　有美（紫）
〈男子HR対抗リレー優勝〉
23HR（橙）
〈女子チーム対抗リレー優勝〉
茶チーム（15・29・34HR）
〈男子3人4脚リレー優勝〉
橙チーム（11・23・37HR）
〈女子3人4脚リレー優勝〉
黄チーム（17・27・32HR）
〈綱引き優勝〉
灰チーム（10・22・39HR）
〈長縄優勝〉
黄チーム（17・27・32HR）

九月三十日（木）前日の天気予報では降水確率90％で、体育大会の実施は無理だと思われたが、当日は残暑の中生徒も先生も待ちに待った体育大会が行われた。

今年の体育大会は黄組（17・27・32）が橙組（11・23・37）と茶組（15・29・34）との接戦の末に総合優勝を果たした。

今年は新しく三人四脚リレー、借り物競争、障害物競走の三つの種目が加わり、他の競技でより壮絶なバトルが繰りひろげられた。

各競技とも盛り上がりを見せ、中でも綱引きとHR対抗リレーがひときわ目立っていた。

綱引きは予選から力と力のぶつかり合いで、参加している生徒も、応援している生徒も一丸となっていた。

HR対抗リレーの決勝では、優勝した橙組に関らず、他の組が旗をかかげあい、喜びをわかちあっていた。

生徒と先生が、一丸となって楽しんだ体育大会は、高校生活の思い出の一ページに刻み込まれただろう。

▲ 精一杯頑張っている緑チーム

綱引き

体育大会では恒例となった綱引きが予選と決勝に分けて行われた。予想された通り綱引きは大変な盛り上がりを見せた。

この競技は、三本中二本取ったチームが勝ちなのだが、どのチームも一本取るごとに皆で盛り上がった。

決勝は、灰と黄で優勝が争われ、激戦の末、灰が優勝をした。しかし、黄も全力を出しきったという表情で、対戦後両チームとも健闘をたたえあった。

長縄

▲ 200m、駆死の一位

今年で三回目となった長縄では、数分間の練習の後すぐ本番という短い時間でどれだけ息が合うようになったか本番でその成果が競われた。縄を回す人と跳ぶ人のタイミングが勝利への鍵となり、それができているチームが多く跳ぶことができた。そして、黄チームが見事勝利の栄冠に輝いた。（K・さい・しげりん）

誰でもできる アイドリングストップ

自動車の排気ガスの中には、有害な化学物質が大量に含まれているため、人間の健康を侵します。何年か前に東京で、自動車道路の沿道に住んでいる人々について、健康調査が行われました。その結果、自動車道路に近いほど、肺癌にかかっている人の割合が高くなることが示されました。このような排気ガスの被害は人間だけでなく、自然にも大きな影響を与えます。

前号では、自動車から排出されるガスによる大気汚染について、その人間への害や自然への被害を取り上げました。今回は、その対策として遠州鉄道が行っている、アイドリングストップ運動について考えてみました。

南高の中にも、バスや車で通っている生徒が大勢います。しかし、個人の車で大勢が通学するよりも、大勢が乗れるバスで通学した方が、排出量が少ないのです。遠州鉄道のバスでは、アイドリングストップ運動が行われています。アイドリングストップとは、20秒以上停止すると思われる場合にエンジンをとめることです。

アイドリングストップ運動は、浜松市も名古屋市、神奈川県などと共に「環境によい都市」に指定されているため、遠州鉄道会社でも、公共的な事業として二酸化炭素削減のため始められました。二年以上も前から、アイドリングストップを行うバスが導入されましたが、実際本格的に始められたのは、昨年の12月からです。遠州鉄道会社は、比較的他のバス会社よりも早く始めたので、新聞に取り上げられたり、環境保護団体からの大きな反響があったそうです。

◀ アイドリングストップを行っていることを表すマーク

バスの運転手の方は、苦労も増えたと思いますが、がんばってほしいです。

私たちもできるだけ公共機関や自転車を利用するようにし、自家用車を利用する場合でも、アイドリングストップを行うことができます。みなさんもこの問題について、身近なことから、できることから始めてみませんか。

（N・K　Y・W）

主な内容

二年研修旅行、一年山の村……一面
携帯電話について……三面
2人のジョン……四面
おすすめCDとポエム……三面

遠州灘

平成11年11月11日。「一」が並んだ日、不況の風を吹き飛ばそうとアイデアを凝らしたイベントが各地で開催された。

JR東日本は開業111年目になる横須賀線の大船―横須賀間に、12月のダイヤ改正で姿を消す113系電車の「メモリアル号」を走らせ、指定席の11号車は予約で満席となった。

小学生の絵を車内展示した特別仕立てで、出発は午前11時11分、先頭車両の番号は「クハ一一一―一一一一」と、とことん「一」という数字にこだわった。

JR各社は「一並び」記念のオレンジカードや入場券、切符を発売し、営団地下鉄が一日から売り出した記念メイトロカード三万枚はすでに完売の人気。各地の郵便局も、スタンプ目当てに訪れる客向けに特製台紙などを用意した。

東京都中央区の三越日本橋本店は1944年から49年まで地下食堂で行っていた店内結婚式を50年ぶりに復活。バージンロードがつくられた一階中央ホールでは、一般客も見守る中、夕方までに二組のカップルが一が並んだ験をかつぎ式を挙げた。

一が並んだということでいろいろなイベントが行われたけれど、あまり世間に影響はなかったと思う。もっとびっくりするような大きなイベントを行ってほしい。（N・F）

修学旅行だゴーゴゴー!!

二年生は、十月十九日、二十、二十一の四日間、三つのコースに分かれて研修旅行に行った。Aコースは長崎、Bコースは鹿児島、Cコースは福岡で研修をした。班別行動が多かったため、一人一人が責任感をもって行動することが出来たと思う。大きな事故もなく、いい旅行になったのではないだろうか。

Aコース　長崎

一日目は商業の町大阪に行った。大阪では名物のたこ焼きをはじめ、様々な物をショッピングした。関西の人は明るく気軽に話しかけてくれたので楽しくショッピングできた。

二、三日目は異国情緒あふれる長崎の町を散策した。スペースワールドにある最大傾斜60度の「タイタン」がスリル満点で僕はクセになった。また、平和公園や原爆資料館が54年間の悲劇を物語っていた。中でも平和公園にあった母親と子供の石像には、なぜか心を痛めて、戦争の悲劇が目に浮かぶようだった。そして戦争に対し憎悪の念がこみ上げてきた。

四日目には、福岡市博物館に行った。この博物館には国宝である「漢倭奴国王」と記されている金印が展示されていた。金印は想像していたよりも小さくて驚いた。

この研修旅行では、様々な物を見て触れて感じて、とてもよい経験になった。（ムツ）

Bコース　鹿児島

26・20日Rは、鹿児島などに行くBコースであった。一日目は浜松から新幹線で大阪へ行った。大阪では、アメリカ村や梅田などに行き、ショッピングやいろいろな場所を見学した。大阪南港でフェリーに乗り、船の中で一泊して、宮崎へと向った。

二日目は宮崎からバスで鹿児島へ向かった。途中、青島海岸を通り、宇宙科学研究所へ行った。そこでは宇宙に関するいろいろなものを見学できた。そして桜島港へ向かった。船に乗っている途中で桜島を見て、自然のすごさに驚かされた。

三日目は鹿児島での班別研修であった。ゴールドパークなどの施設に立ち寄った。西郷隆盛の銅像など歴史的なものも多かった。

四日目はバス移動でのクラス別研修だった。陶芸美山、錦江陶芸、知覧平和特攻会館、ミュージアム知覧などに行った。

研修旅行では、普段体験できないようなことに触れることができて、とてもよかった。クラスでの絆が深まったような気がする。（フミ子）

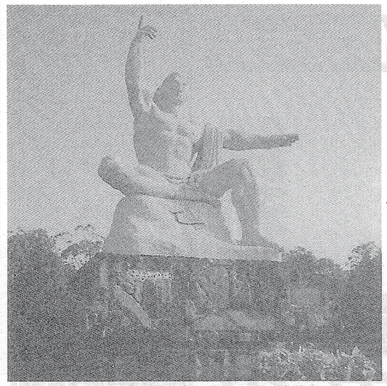
Cコース　福岡

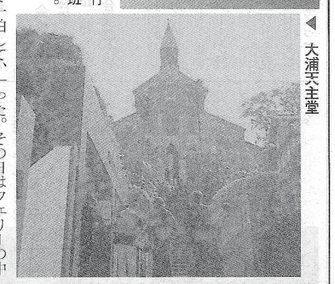
Cコースは、三つのコースの中で最も早い出発となった。六時半に浜松駅に集合した時には、普段は騒がしい二年生もさすがにおとなしかったように思われた。

一日目の大阪の街はとても活気に溢れたにぎやかな街だった。その日はフェリーの中に泊った。潮風がとても気持ちよく感じられた。

二日目は別府港で班ごとに分かれて、スペースワールドなどそれぞれの班が計画したコースを回った。お互いに協力し合うことができたと思う。

三日目は福岡市内を研修した。福岡は想像以上に大きな街で、僕達が泊まったホテルの近くにはデパートがたくさんあって、若い人から年配の方まで様々な人々が街をにぎわせていた。

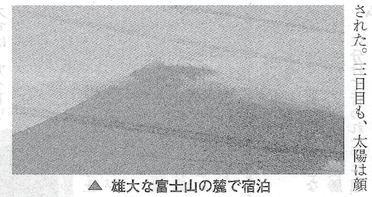

▲ 平和を象徴する像　平和記念像


◀ 大浦天主堂

飛び出せ!! 野外活動

一年生が入学して六ヵ月、生活も軌道に乗り、HR内で互いの理解を深める行事を行うこととなった。

本年度も、一年生は十月二十日からの三日間、富士宮市にある「富士山麓山の村」に「宿泊訓練」を行った。行きのバスの中から曇り空がのぞき、一日目の活動に少し影響を与えた。この日は、富士山初冠雪で三日間の中で最も冷えこんだ日となった。それも四日目は鯛生金山で砂金取りをした。その後、阿蘇山へ行った。火口から立ち上ぼっていた煙が何とも不気味だった。いろいろな体験ができていい思い出づくりになった。今回の研修旅行で経験したことや、友達と一緒につくった思い出を今後の学校生活に生かすことができたらいと思う。（シゲル）


▲ 雄大な富士山の麓で宿泊

多くを学べる友達を持ってほしい

今回は、18HR担任の折金先生に協力していただきました。

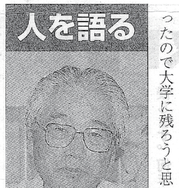
―南高の教員生活で一番印象に残っていることは？

卒業した三年生達が今の大学生活や大学での授業、高校での思い出などを話に来てくれたり、Eメールなどで送ってきてくれることです。

―なぜ、社会科の先生になられたんですか？

何となく…ですね。僕は東京の大学に通っていたのです。始めは新聞社などのマスコミ関係の会社に就職しようと思っていたんです。でも、試験に落ちてしまったので大学に残ろうと思っていた矢先に、静岡県の方から誘いが来たんですね。その当時はまだ、教員が不足していましたから、だから偶然、先生になったという感じですかね。

人を語る


折金紀之先生

―最近の出来事で興味あるものはなんですか？

東海村の臨海事故です。日本というのは世界で唯一の被爆国ですから、核の恐ろしさを一番理解しているはずじゃないですか。にも関わらず、ウランを軽率に扱ったという事実は、やはり許せないですね。あと僕は実を言うと阪神ファンなんですが（笑）、上原選手はすごいと思いますよ。と言うのも、色々な苦しい局面を乗り越えてきた「雑草のような男」じゃないですか。だから、そんな男がプロ野球で活躍しているというのは嬉しいと思います。敬遠したのは残念だと思ったけどね。

―最後に南高の生徒に求めることは？

もっと勉強をして欲しいです。目的をしっかり持って、脇目もふらないくらいやらないといけません。あとは、多くを学べる友達を持って欲しいですね。ふざけ合うだけが友達じゃあないと思いますからね。

―御協力ありがとうございました。

（S・O・おでん）

たのしかったハイキング

二日目には、多くのクラスの生徒がハイキングを行った。天気が心配されたが、前日のような霧や雲はほとんどなく無事に晴れわたった。そのおかげで頂上に雪が積もった美しい富士山をところどころに眺めながら歩くことができた。途中からは、自由行動になり四時間の間いろいろなコースを回り、アスレチックに行ったり広場で弁当を食べたり、話をしながらそれぞれ楽しく時間をすごすことができた。帰りには、疲れていてぐったりしていた人も多かったようだ。

大混乱の自炊活動

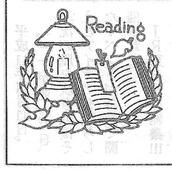
それぞれ二日間の中で二回の自炊を行った。薪で火をおこしたので大苦戦、御飯をたくのもたいへんであったもののおいしくいただくことができた。自炊班の人々は、ジャージや髪の毛をすすまみれにして、たのしそうにつくっていたのが印象的だった。

木々の中で

私たちの活動は決して、天気に恵まれてたものとは言えない。しかし、活動そのものとしては充実し、得たものは大きかったと言える。

ケガ人も少なく無事に三日間を過ごすことができたのも、よかったことの一つだ。創作活動では、木を利用して世界にたった一つの思い出の作品を作り上げていた。また、勤労体験では自然の生命について考えさせられる、いい機会になったといえるだろう。レクリエーションでは、大いに盛り上がりHR全体のモチベーションも上がりたのしく活動していた。

「山の村」での三日間は自然のフィールドの中で浜松では、体験しにくい自然とのふれあい、自然の中で生活を肌で感じることができ、自然から学ぶことが多かった。大自然の中で得たものは絆や友情というものだけでなく、もっと大きな現代の生活で得がたい大切な心だった。自主性や協調性、そういったものも養い感じることができたと思う。（きんさん・ミッチ）



校内トピックス

今年の十月七日、12日R担任で、英語科の片岡徹先生に女の子が誕生した。お名前は、「咲奈（さな）」ちゃん。この名前は、明るく元気な子に育ってほしいという願いが込められている。

咲奈ちゃんは、願い通りミルクをたくさん飲んで、元気に育っており、とにかく、食欲旺盛であるということだ。

先生は、仕事と子育ての両立の大変さに追われながらも子供の顔をみて、ホッとする毎日であり、平凡だけどこれが幸せというものだと思ってがんばっているそうだ。

お子さんについて話されて、咲奈ちゃんは幸せそうであった。そんなところから、先生の幸せさがよく伝わってきた。それは、写真の先生の表情からもよく分かる。そんなお父さんの愛情に包まれる先生の様子はとても嬉しそうであった。

▶ 新しい家族の誕生

片岡咲奈ちゃん　誕生おめでとうございます

携帯電話について

近頃では、世間全般で携帯電話もかなり普及し、身近なものになってきた。又、街中では携帯電話をかけながら歩く姿も今では当然となっている。しかし、それと同時に携帯電話に関しての注意書きも多く見られるようになり、マナーや人体への被害も無視できないものとなりつつある。

まず、マナーの面では公共の場における態度である。人目を顧ず街中や電車内で大声で話されてはたまったものではない。別に話してはいけないわけではないが、人に迷惑がかからない程度に遠慮して、声のボリュームを下げるとか、道の端によけて話すなど、周りへの配慮というものが、利用者には必要と思われる。

他にも、これは私が実際に体験したことだが、映画館で上映中に携帯電話が鳴り、その場で大声で話し始めた人がいた。そのような場ではマナーモードにしておくべきであり、そうでなくても着信したら退室して会話するのが常識ではないだろうか。私はせっかく楽しみにしていたスタートレックの上映を邪魔されてとても気分が悪くなった。

年配の方々が、最近の若者はマナーがなっていないと言うのもうなずける気がする。どこにいても話ができるという便利さと裏腹に、マナーの悪さが目立つという欠点が生じてしまった。

次に携帯電話の出す電波の影響についてだ。目に見えない電波なだけに、当の本人はいたって無頓着である。しかし、その影響は確実にあるものだ。新聞によれば、航空機の計器や医療機器の異常、ガソリン類の発火、人体への影響など様々ある。航空機でいえば、通話中のノイズ、高度計、速度計の異常、ひどいものは飛行機が墜落した例さえもある。これは別に通話中の電波だけではなく、電源を入れているだけでも影響は出る。人の切り忘れのせいで、大多数の人間がまきぞえをくらったのである。なんまんだぶ

ではない。微少だと思われる電波も精密機械相手では命取りである。人間に対しての影響にも懸念されている。電波を受けると体に痛みが走る人もいる。ペースメーカーをつけている人は、携帯の電波をいつも気にしていなければならない。他にも最近では子供に対する電波の被害が研究されている。それによると、電波によって白血病や、膿腫瘍が発病する可能性があると言われている。

にもかかわらず、携帯電話が普及してきている理由には、電話以外の機能の多さがあるのではないだろうか。例えば、ニュース、天気予報、占い、宝くじ当選番号、シネマ情報などが見られたり、コンサートのチケット予約や、インターネットの接続までできてしまう。もはやこれはただの電話とは言えない。これからも携帯電話は開発が進んでいき、一人一台が当たり前の時代が来るのもそう遠い話ではないだろう。その頃にはもう、電話という本来の機能の方が、おまけになってしまっているのかもしれない。

他にも着信メロディを自分で決められるという機能がある。これは音楽と電話を組み合わせたおもしろい機能で、これだけでも充分に携帯電話で楽しむことができる。それに、設定した曲がその人の個性を表したりする。

このように携帯電話には、様々な問題点があるにも関わらず、その便利さと実用性の高さによって、私達の生活に溶け込みつつある。これらを踏まえた上で、本当に必要かどうかもう一度考えてみてはどうかもう一度考えてみてはどうだろうか。（鈴木・藤下）

ポエム

虹のオルゴール

この先も何年経っても
僕は変わらず
君を待っているから
言葉に出来ない
悲しみがこみあげてくるけど
きっと胸の内には
虹のオルゴール
そんな時は
広い大空に虹が輝き出したら
いつか一緒に
あの橋を渡れたらいいな
寂しい気持ち
悲しい気持ちが
高まっていくけど
きっと胸の内は
虹のオルゴール

T・O（担当　Y・M）

おすすめCD

このコーナーではおすすめのCDを紹介します。

・Hi-STANDARD（ハイスタンダード）

もう多くの人が名前ぐらいは知ってるはず。世界に通用するのはグレイでも宇多田でもなくこのハイスタです。とくに左のCDがおすすめ。メイキング・ザ・ロード

・ノーユーズフォーアネーム

アメリカのEATレコード所属のバンド。（ハイスタンダードも所属している。）アルバム「メイキング・フレンズ」は鋭い楽曲と、熱いボーカルとメロディアスな歌。十月に出たニューアルバム「モアペターネス」はそれまでの鋭さが、良い意味で丸くなりスローな歌や、アコースティクナンバーもあり、新しいメロディックコアを楽しめる。熱い歌とメロイが最高。メロディックコア好きの人にはぜひ「メイキング・フレンズ」を聞いてほしい。しかも聞く度に好きになっていきます。ホントオススメ品。

・THE GET UP KIDS（ザゲットアップキッズ）

日本の多くのバンドにもしたわれている、アメリカのエモーショナルなメロディックコア。

ギターの歪は少なく、ピアノを取り入れた曲も多く、何といっても歌のメロディがアツい。新しく出たアルバム「SOMETHING TO WRITE HOME ABOUT」がオススメ。買って損はないと思う一枚。

・EASTERN YOUTH（イースタンユース）

日本語で歌う日本の大御所バンド。アルバムは主に四つあり、中でも「旅路二季節が燃エ落チル。」「雲射抜ケ声」がいい。日本語で歌うことで日本の風景や、都会の夕暮れや夜、空などを歌っている。その中で思ったことをアツく歌にプチかましている。

空間的な楽曲や、歌に、心がアツくなります。どんな気分のときも、気の合う曲が必ずある。

・REACH（リーチ）

日本のメロディックコアの中ではキャリアを持った三人が集まって結成されたバンド。

ソパットとのスプリット、「7ソングス」、オムニバス等に参加し、徐々に有名になってきた。九月下旬に出たミニアルバム「ディスク・フルオブ・サインズ」では、実験的な歌もあり、その歌と音楽性は、日本でもトップクラス。また、歌詞がいいので、それも読んでほしいと思う。

・BEYOND HATE（ビヨンドヘイト）

浜松のハードコアのバンドで、ボーカルは砂山地区に住んでいるという、存在の近さ。でもアルバム「ビギニングオブ・リベンジ」で一気に日本中のハードコアファンには知られるようになった。重くメタリックな音と、重低音の声と突き抜ける声の合わさった、デスメタルっぽい新しい日本のハードコアを聞かせる。ライヴはメスカリンドライブで見られる。（高木・杉下）

論説

インターネット犯罪

一九九五年秋、「ウインドウズ95」が発売された。この発売模様は、テレビや新聞でも報道され、パソコンに興味を示していなかった人たちにまでも影響を与えた。そして、その日を境に一般家庭にもパソコンが普及していき、現在では、パソコンがない家庭の方が珍しい位にまでなった。

パソコンの普及によって身近な存在となったものがインターネットだ。インターネットによって日本の情報はもちろんのこと、世界の情報までも、電話回線を通じて家にいながら知ることができる。人間はいったいどこまで便利なものを開発していくのだろうと考えさせられてしまう。

しかし、インターネットが便利であるゆえにその便利さを利用した犯罪が目立つようになってきた。

例えば、毒物の売買。普通は、限られた人たちだけしか買えず、身元や身分証明、用途等も明かさなければならないという。そこまでしなければ入手できない毒物がホームページで当り前のように売られている。そのホームページを見つけさえすれば私たちのような高校生にも毒物は簡単に手に入れられる。これは本当に恐しい事である。顔や身元が分からないというインターネットにおける盲点をついた犯罪である。

このような犯罪を防ぐ方法として挙げられることが、多くの人間のモラルである。もはやインターネットは世界中の人と巡り合える公の場といっても過言ではない。だから、名を明かすことは当り前の事だと思う。プライバシーの侵害と言う人もいると思うが、しかし、人の命が関わってくるのなら話は別だ。これからは、携帯電話等の最新機器を使った計画的な犯罪の防止法と我々人間のモラルについて今よりも、さらに真剣に考えていくべきだ。（T）

2人のジョン

ALTの2人のジョン先生にインタビューをしました。

〈K&W〉

Q. Where are you from? And how is there?
A. <Jonny> England.Weather is much cooler and the country is a bit smaller-a great country to go and visit-especially London and Edinburgh.
<Jon> North Carolina,U.S.A.It is near the mountains so the weather is nice. Medium-sized city.
Q. What is your hobby and your speciality?
A. <Jonny> My hobbies include soccer,badminton,cycling and swimming.I also enjoy hiking.(I climed Mount Fuji in August.)
<Jon> Playing frisbee and sometimes basketball.I love being outdoors so I go hiking and camping a lot.
Q. What Japanese things do you like?
A. <Jonny> Japanese people are great and also I love the food.
<Jon> I like GAME CENTERS ,rock gardens,and SYABUSYABU,NIKUJAGA and SUSHI. And I love SENTOU!!
Q. What Japanese things do you hate?
A. <Jonny> Weather in the summer!
<Jon> I don't like NATTO,fish which smells bad and cockroach.I hate big SEMI.
Q. What is your impression of Japan?
A. <Jonny> A great country with many great and beautiful places!
<Jon> A country where both the old and new ways of life can still be seen. Also, I think the Japanese are the friendliest people in the world.
Q. What is your impression of Minami High school and students?
A. <Jonny> Seems to be at a fainly high academic level.The students and teachers have been so friendly and helpful.
<Jon> I am very impressed with the English level of both the teachers and the students.Everybody is very kind and tries to help out Jonny and I out when we have problems.
Q. Why did you come to Japan?
A. <Jonny> To experience a new culture and tell people about my experiences in life-for example-travelling.
<Jon> Wanted to come back to Japan to learn more about the Japanese way of life and to make lots of friends among the people here.
Q. Please give us your message.
A. <Jonny> Work hard and play hard.
<Jon> Live everyday like it was the last day of your life.
——Thank you very much Jonny & Jon.

〈左〉Jon Blosser (Jon)ゴエモン　〈右〉Jonathan Peacock (Jonny)肉ダンゴ

燃えろ!! 部活動

今回は、各部活動の面白&失敗話を取材に行きました。協力してくれた部活の皆さん、有難うございました。それでは、楽しんで読んでください!!

—陸上部—
新幹線の発車時刻を間違いえていたので、ラーメンを食べていて乗り遅れそうになった。

—卓球部—
スマッシュが前歯にあたった。
試合会場の場所が分からず、地下道を一時間さまよっていた。

—水泳部—
試合中にタイムを計り忘れた。
絶対例のない背泳ぎのフライングをやってしまった。
試合後に女子の水着が盗まれた。

—剣道部—
妙に坊主の人が多い。

—男子ソフト部—
試合の日、朝七時集合なのに寝坊してしまい、七時十五分に家に電話がありそれで気が付いた。

—女子ソフト部—
同じ人に、しかも同じ場所に二、三回デッドボールされた。

—女子ハンド部—
部活に行ったら休みで、せっかく学校に来たから豆まきをして帰った。

—男子バスケ部—
ボールをパスしようと思ったらゴールリングにボールがぶつかってまた自分の所にはね返ってきた。

以上が面白&失敗話でした。みなさんどうでしたか。楽しんでもらえたでしょうか。これからも協力お願いします。

〈部活動報告〉

—柔道部—
新人無差別
立井一　葛西　一回戦敗退
山部　二回戦敗退
女子四十八キロ級
梅田　二回戦敗退

—男子ソフトボール部—
県高校新人ソフトボール大会
浜南0—5静岡北

—男子ハンドボール部—
西部ハンド馬場杯
決勝　浜南26—5浜松湖東

—男子バスケットボール部—
西部予選
浜南63—100浜商
浜南85—48学芸

—女子バスケットボール部—
バスケ選抜優勝大会西部地区予選　浜南69—48学芸

—男子テニス部—
選抜東海大会
一回戦
浜南0—5名古屋学院高校
コンソレ一回戦
浜南3—1岐阜高
コンソレ二回戦
浜南3—1東海高
（敗者復活戦）
東海5位
全国大会出場ほぼ確実!!

—水泳部—
新人県大会
山本礼子
百M背泳ぎ　一位
二百M背泳ぎ　二位
土屋英則
二百M背泳ぎ　十位
女子四百Mリレー
女子総合八位
男子四百Mメドレーリレー
八位

—男子卓球部—
西部新人選
（三回戦）
浜南1—3袋井商
（敗者一回戦）
浜南1—3湖西

—女子卓球部—
西部新人戦
浜南1—3小笠

—女子バレー部—
西部新人決勝
浜南0—2浜南

—陸上部—
県高校新人陸上大会
男子百十MH　七位
鈴木陽介
男子走幅跳
五位★野末昌伸
八位　杉浦貴浩
男子三段跳
五位★杉浦貴浩
女子円盤投
六位★鈴木なつみ
女子砲丸投
八位　鈴木なつみ
（★は東海大会出場）
東海高校新人大会
男子走幅跳
七位　野末昌伸
男子三段跳
十位　杉浦貴浩
女子円盤投
十二位　鈴木なつみ
男子百十MH
鈴木陽介　予選失格
県高校駅伝大会
男子49チーム中　十九位
以上が部活動報告でした。みなさんも次の大会もがんばって下さい。

（A子&C子）

二〇〇〇年高文祭 吹奏楽部マーチングに挑戦

九月二十六日、浜松アリーナにて、二〇〇〇年高文祭のプレ大会でもある、マーチングバトントワリング静岡県大会が行われました。浜松南高校もこの大会に出場しました。当日、一時より大会がはじまりました。本番前に、南高の出場生徒に今大会の意気込みを聞いてみたところ、「歌って、踊って、吹きまくります!」「一生懸命がんばった練習の成果を出しきりたいです。」「オー!」などと語ってくれました。八時前という朝早い時間から、サブアリーナで練習が開始されました。写真を御覧になるとわかる様に、全員、本番に向けて一回一回の練習をこなしていきました。他の出場校にもインタビューを試みたところ、浜北西高等学校の副部長の方は、「一生懸命悔いの残らないようにがんばるので、楽しんできいてくれるとうれしいです。」と、親切に答えてくれました。他校の生徒も、南校に負けない意気込みで、練習を行いました。公式に行われるサブアリーナの練習以外にも、会場の外で、調整や練習をしていました。大会は秋にしては涼しすぎるほど、冷房のきいたメインアリーナで行われました。この大会には、パレードコンテスト部門、フェスティバル部門、バトントワリグ部門などの三つの多彩な部門があります。南高校が出場したフェスティバル部門は、六分以内の演技時間の中で、各チームの自由な服装と創意工夫を十分に発揮する部門です。南高吹奏楽部は力一杯フロアの上で六分間の演技をしました。踊る人も楽器を演奏する人も、指揮に合わせて華麗な演技を披露してくれました。演奏を終えた生徒は、「終わって良かった。とても緊張した。前の日に楽譜が変わって、そこが上手くできなかった。」「毎日遅くまで練習してがんばってきた。でも少し悔いが残ってしまった。」と、インタビューに答えてくれました。

▲ 真剣にリハーサルに臨む生徒ら

この大会で、南高校は、銀賞に終わりました。一番素晴らしい演奏をした学校に贈られるグッドサウンド賞は、高校では、浜松工業高等学校と静岡市立商業高等学校の二校が獲得しました。

今回行われたのは高文祭の予行演習です。来年度には、静岡県内の各会場で高文祭の催しが行われます。南高の文化部も、多数参加予定です。文化部のみなさんも運動部に負けないぐらい頑張ろうではありませんか?

（Y・M・まき）

▲ 意気込み十分の男子部員

編集後記

・納得のいくことができてとてもうれしく思っています。**N・F**　・横書きは大変な作業になるのでもうやらない。**W**　・がんばれました。よかった。**まき**　・次回はもっとしっかりやろう。**中根父**　・論説はやはり難しいものでした。**T**　・前回よりは順調にいきました。**おでん**　・記事の内容を考えるのに苦労しました。**Y・W**　・各部活に取材に行くのが大変だった。**A子**　・やっぱり取材は大変だと思った。**C子**　・もう一面はやりたくないと思う。**しげりん**　・仕事が早く進んだのでよかったです。**高木芳憲**　・マーチングを見に行けてよかった。**Y・M**　・携帯をただの道具とあなどるな**藤下**　・なかなか書く記事がなくて大変だった。**S**　・今回は、新コーナーができて、楽しめました。**M**　・今日という日を見失わないように、大切にして下。**さい**　・計画を立てて行動することは大切だ。**鈴木**　・一面を飾る体育大会の記事を書くのが難しかった。**K**　・まだまだ慣れない作業もあったが、がんばれた。**きんさん**　・環境問題を調べるのは、とても難しかった。**N・K**　・H君に裏切られ、キノコをたくさん食べた。**しげる**　・前回より順調にいったと思う。**OSHIRO**　・今度は締切までに原稿を書きたい。**ふみ子**　・いやぁーこれからはエンジン全開でいきたいですね。**ムツ**　・ALTの先生にインタビューできておもしろかった。**K**　・前回よりも計画どおりにできたと思う。**ミッチ**　・初めてインタビューをして、いい仕事ができた。**A**　・人はなぜ締切の日になると焦るのか。**P**